

創作は、心の中に抱く考えや想いを、マインズアイ・心の目で二次元平面上の紙やキャンパス、モニター上に描き、書き、著作者の意志を第三者、見てくれる人々に伝えたい、その一心で有史前から現代に至るまで、知的生命体の基本として成し続けている伝達の手段です。

それが創作、創造と言われるもので、小説も漫画も絵画も音楽、作詞も写真も立体芸術作品、建築、建造物に至るまで、人の行為総てを律する原則だと信じています。

創作著作を志す者に保証は有りません。

年金も定年もキャリアの差も存在しません。

ただ有るのは、描き書き残し創造したものが、世の人々の共感を得て後世に残るか、遣せるか、それだけを運命に委ねて生涯を懸けて命尽きるまで、人生の時間の総てを費やして働き続けるのみです。

自らの生きる糧をそれによって得、又家族の糧を、創造で得たもので護り続ける、作家の力量と気力、信念に殉じて遣し得る、これが但一つの自らが選んだ道の結果です。

過去の著作物、創作物も総て同じです。

先人に敬意を払い、初筆としての作品を創作できなければ、自己完結さえ不可能です。

故に過去の、そして自らの著作物が、意識、改変され、著作者の想いが、志が、伝えんとした信念が、第三者によって踏みにじられ、流用者の利益のみに帰結するのは耐え難い屈辱的事態です。

更に長寿高齢化が進む現代、遣された家族の未来を思うのは、当然の事です。

そこに70年問題の核心が存在するのは、創作に生涯を懸けた者の当然の願いであります。

創作、創造は、但金銭への願望では有りません。

著作者の志と信念、創作に挑む者が生涯を懸けた、そのプライドが支配する壮烈な覚悟の結実した実証です。

過去も現在も未来も不変の創作世界の原則であります。

『70年延長を世界と概ね歩調をそろえて』対等な活動状況を可能とすべく未来を考慮して、その実現を願うのは、こうした理念に基くからであります。

日本漫画家協会 著作権部 部長  
松本零士

©2007.9.22.  
TAKESUMOTO